

冬 相手を思う気持ち

合川 三学校 一学三 一巻
河田 晃和 かわた あきと

「これ、ください。」
はっきりとはい聞き取れなかつたが、おそろくそう話したであらう僕の目の前にいる人。本当ならすぐに飲み物を渡さなければならなかつたのに、その時の僕は一瞬動きが止まつてしまつた。その人がいつも一緒に過ごしてゐる僕の家族や友達と違つて見え、動揺してしまつたのだ。焦つて氷水の中から飲み物を取り出し、タオルで拭いて渡した。その時の僕は何か話して渡しただらうか。どんな表情

中学生三人権作文
原稿用紙

秋三県人権擁護委員連合会

をしていただらうか。

僕は夏休み中、初めて自主的にボランティア活動に参加した。僕の住んでいる合川地区には障害者支援施設や老人介護施設がいくつもある。旧合川町は「福祉宣言の町」だったからそういふ施設が多いのだと家族から聞いたことがある。今回のボランティア活動はその中の一つのある知的障害者支援施設の夕涼み会の手伝いだつた。東京都からの委託施設なので、利用者の方々の家族は遠方に住ん

ている方が多く、毎年、利用者の方々はもち
 ろん、その家族のみなさんもこの日を楽し
 みにしているのだそう。そう、こういっ
 たボランティア活動が初めてでどのよう
 な事をするのか、どんな人と接するの
 かなど不安な気持ちもあ
 った。しかし、年に一度の夕涼み会を
 楽しみにしている利用者の方々には喜
 んでもらうことを目標に頑張ろうと
 思い、臨んだはずだ。このままでは
 いけない。利用者の方々を楽しみに

中学三年生 植木 文
 原稿 三月 紙

秋三巻人権授業委員選出委員会

していた夕涼み会をぶち壊しにしてしま
 う。僕は混乱していた。ふう、と息を
 大きく吐いて、施設で働いている人
 達の動きや、一緒に参加している先輩
 や友達の様子を見た。みんな笑顔だ
 った。利用者の方々も嬉しそうに見
 える。先輩や友達との口調もいつも
 僕に話しかけてくれる時と同じ。優
 しくて明るいものだ。いつも通り
 でいいんだ。相手を笑顔にしたか
 たら、まず自分が笑顔でいることが
 大切なんだ。

「これを二本、ください。」
「楽しんでください。」という思いを込めて
丁寧に飲み物を拭き
「はい、どうぞ。」
と利用者の方の顔を見て、笑顔で手渡した。
するとその人も喜んでくれて
「ありがとう。」
と言ってくれた。僕も嬉しくなった。その後
も僕は笑顔を意識しながら、次々と飲み物を
拭き、手渡した。飲み物をもらいにきたわけ

二学主人権作文

原稿用紙

秋三老方法事務局

秋三県人権擁護委員連合会

ではない人にも積極的に話しかけてみた。楽し
しかった。最後にみんなで見ただ花火は、とて
もきれいだ。花火を見上げる人達の笑顔
は、花火に負けないくらい輝いていた。

今回のボランティア活動で、多くのことを
体験することができ、いろいろ考えさせられ
た。その中の一つが、僕が初めに感じた「自
分達とは違う」という思いだ。この思いが大
きくなるといくと差別や偏見につながって
いくことになるのではないか。正直なところ、

自分には差別や偏見といっ
 たものはないと思
 っていた。しかし実際は、
 僕の心の中にその
 小さな種はあった。「自
 分とは違う」と感じ
 たことを忘れてはいけな
 いと思う。そして大
 切なのはそう感じた後
 に、どう行動するかと
 いうことだ。そもそも
 自分と全く同じ人間な
 らんて存在しないのに、
 あの時の僕は何を見て
 「自分とは違う」と感
 じたのだろうか。今と
 なってははきりと思
 い出すことができない
 でもあの時、僕がその
 思いをぬぐい去ること

中学生入権作文
 原稿 三 月 紙

秋田県入権推進委員会

がで
 できなかったら、今
 回のボランティア活
 動に参加して良かった
 と感じることもな
 かった。あなたに
 きれいな花火を見る
 こともできなかった
 部分が多
 くあったとしても、
 僕達は同じ地区に
 住む人間同士だ。
 大切なのは、その
 違いを認め、受け
 入れ、自分から一
 歩その人達に近づ
 いてみるこ
 とだった。

そこでもう一つ大
 切だと感じたこと
 がコミニケーション
 だ。僕はもとも
 と話すことが

得意ではない。普段から何を話そうか、どう話そうか考えているうちに、言葉がつまったり、話せないまま終わってしまった。たりするところが度々ある。しかし今回の活動を通し、話すことだけがコミュニケーションではないと思っただ。僕が飲み物を渡す時、たくさんの言葉は必要ではなかった。楽しんでほしいという思いを込めて丁寧に拭き、笑顔で渡した。相手も笑顔になっってくれた。言葉はなくても相手を思う気持ちは伝わるし、その気持ちを

中学三人権作文
原稿用紙

秋三県人権擁護委員連合会

伝える方法が今回は笑顔だったのだと思う。僕の夏休みに素敵なお出をくれた今回のボランティア活動。今感じている思いを大切にしたい。これからいろいろなボランティア活動に参加してみようと思う。そして、多くの方がボランティア活動に参加してくれるように、周りの人達に僕が学んだことやその魅力を伝えたい。そうした積み重ねがいつか大きな何かになると信じて。